

学校教育目標	自立貢献 ～自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することのできる生徒の育成～
--------	---

a ミッション 「生徒や保護者、地域から信頼される学校をつくる。」 生徒や保護者が美木に来て良かった。行かせて良かった。また、教職員が美木中に勤務して良かったと思える学校にする。 ○知育・徳育・体育のバランスをとり、地域に根ざした教育活動の推進 ○学校教育の信頼性の確保と満足度の向上 ○SSRによる本学校等生徒への関心と支援の充実及び不登校の未然防止	a ビジョン ・規範意識を身に付け、向上心を持ち、自ら学ぶ意欲的な生徒を育成する。 ・自己を大切にしている生徒を育成する。 ・自己を認識し、将来の夢や目標を立て、その達成に向けて計画ができる生徒を育成する。
--	---

尾道市立美木中学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	12月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			m 改善案	
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
確かな学力	「主体的な学び」を促す教育活動を実践し、確かな学力を育成する。  ○自ら学び、自ら考え、表現する力の育成	・教科・領域において、ICT機器を活用した授業づくりに取り組み、授業研究等での実践発表を通して授業力を高める。  ○学校評価生徒アンケート。 ○学校評価教職員アンケート。 ○教職員ICTに係わるアンケート。	①学校評価生徒アンケート。 ②学校評価教職員アンケート。 ③教職員ICTに係わるアンケート。	60%	96.8%	94.1%	155%	A	①2の学校評価アンケートにおいて、生徒アンケートでは肯定的評価は94.1%、教職員アンケートでは肯定的評価は88.3%である。③の教職員ICTに係わるアンケートにおいて、「教職員がICTを使いこなしていると思う」という質問の肯定的な評価は69.2%と前回より上がっている。また生徒によるICTの活用で「知識の定着や技能の習熟を図る」ために使用している割合が46.2%と伸びている。生徒によるICTの活用頻度は「週に1～3回」が90.8%、「月に1～3回」が61.5%とやや伸びてきている。また2学期中に積極的にICTを活用した授業研究を1人1回行い、意識改革を行った結果で達成度は上がっている。教職員全員があらゆる場面でICTの活用を積極的にを行い継続して使用できるよう努めている。	3			ICTを取り入れた学習内容で、教職員生徒とも導入効果を感じていることはいへんよい傾向であると思います。継続して活用を高めていってほしいです。	ICT活用を意識し、研修や自己研究を行い、いろいろな場面でICTを活用できるようにさらなる向上を目指して研究を行っている。校内研修でICTの効果的な活用の紹介を行い、質を高めていく。
				60%	88.9%	88.3%	<93%>	<91%>						
豊かな心の育成	規範意識や礼儀など、豊かな心を育成する。  ○「時を守り、場を清め、礼を正す」の奨励	・教科・領域において、学習目標達成をみとる手立てとして、話す・書く等の表現をさせる場を設定し、表現力を育成する。	①学校評価生徒アンケート。 ②学校評価教職員アンケート。	60%	82.5%	79.9%	140%	A	①の肯定的評価は79.9%である。②の肯定的評価は88.2%である。教職員も表現力の質を高めるような授業改善を意識している。各教科・領域で具体的どのような取組を行っているかが分からないので今後は各教職員が具体的に目標をもって取り組む必要がある。	3			単元の中で、「話すこと」や「書くこと」を意識した取組を行い表現力の質を高めるために表現させる前に表現の仕方の特徴を提示したり繰り返し取り組むことで、表現に慣れさせる。また他の生徒の内容を参考にすることで質の向上を図る工夫を行い、教科の特性を活かしながら今後も取り組んで行く。来年度に向け、どのように取り組んで行くのか各教職員が取組を考えていく。	
				60%	88.8%	88.2%	<86%>	<84%>						
				80%	97.8%	97.7%	110%	A		①の肯定的評価は97.9%である。②の肯定的評価は78.2%である。生徒会執行部を中心に、生徒会から呼びかけやチャイム前着席強化週間を設定し、取組を行った。その結果、1週間で最もチャイム前着席ができたクラスの達成率が83%であったので、100%の達成を目標に取り組む必要がある。	3			
80%	77.8%	78.2%	<88%>	<88%>										
豊かな心の育成	規範意識や礼儀など、豊かな心を育成する。  ○「時を守り、場を清め、礼を正す」の奨励	・10分間集中して清掃活動に取り組み、掃除の習慣化を図り、清潔な生活環境への意識を高める。	①学校評価生徒アンケート。 ②学校評価教職員アンケート。	80%	91.3%	88.8%	85%	B	①の肯定的評価は88.8%である。②の肯定的評価は47.2%である。教員が全ての清掃場所については、人数が足りない。また、この項目が最も教職員と生徒の意識の差が現れているので、生徒会を中心に生徒主体で呼びかけていく必要がある。	3			教員の清掃担当の見直しを行ったので、その清掃場所も振り返りのチェックを行い、できていないところは声をかける。また、生徒の清掃場所の見直しも行い、1年間固定の場所を清掃するのではなく、各学級で役割担当を考えている。	
				80%	55.6%	47.2%	<73%>	<68%>						
				80%	89.0%	86.4%	91%	B		①の肯定的評価は86.4%である。②の肯定的評価は58.9%である。生徒会執行部・生活委員会によるあいさつ運動を行った。教員から見ると、気落ちの良いあいさつができる生徒が増えた。しかし、引き続き、あいさつをされたら返すが、自分からあいさつをできていないことが多い。	3			
80%	50.0%	58.9%	<69%>	<73%>										
健やかな体の育成	自己を認識し、自分の将来の夢や目標を持つことができる生徒を育成する。	基本的な生活習慣を確立する。  ○三点固定（朝起きる時間、家庭学習を始める時間、寝る時間）の確立	学校評価生徒アンケート。 ①「起きる時刻と寝る時刻を決めて、毎日それを守って規則正しい生活を送っている」 ②「自分で家庭学習の時間を決めて、毎日それを守って勉強している」 それぞれの肯定的評価の向上。	75%	66.2%	61.5%	80%	B	①の肯定的評価は61.5%であった。一週間の生活習慣チェックシートを分析したところ、92.8%の生徒が7時間以上睡眠時間を確保しているという結果がでた。このことから起きる時刻と寝る時刻を決め、守っている生徒は61.5%に留まるもの、睡眠時間は確保出来ていることが窺える。②の肯定的評価は前回とほとんど変わらず57.5%であった。学習時間が短い学年はメディア使用時間が特に長い傾向があり、学習習慣と併せて改善していく必要がある。	3			生活習慣の定着には、家庭との連携が必要であるため、辛抱強く取組を続けてください。そして計画的にすすめて下さい。	
75%	57.3%	57.5%	<62%>	<60%>										

【自己評価 評価】  
 A: 100≦(目標達成)  
 B: 80≦(ほぼ達成) <100  
 C: 60≦(もう少し) <80  
 D: (できていない) <60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。